

【目次】

1. 「年頭にあたって」 代表幹事 渡邊一雄
2. 中国からの留学生に対する研修会の講師の斡旋依頼について
3. NHK文化センター広島教室からの講師の斡旋依頼について
4. 広島大学から依頼のあった「平和科目」開講要領について
5. 広大マスターズ企画のロシア旅行のご案内について
6. 春の例会として広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台の見学会を開催予定

1. 「年頭にあたって」

広島大学マスターズ広島代表幹事 渡邊一雄

あけましておめでとうございます。今冬はことのほか寒さ厳しく、昨夏の猛暑を想えば寒暖の差が激しく感ぜられる日々ですが、皆様にはよい新年をお迎えのことと存じます。

昨夏の設立総会において、本会の目的は楽しい親睦・交流、大学・社会への貢献であり、まずは周囲の皆様から“よい会ができたな”と思って頂くこと、と申しました。周囲の皆様とは、本会の会員、広大の現職教職員、市民であり、それこそがあまり急がず、無理せず、着実に組織率(?)を上昇させる道だろうとも。

約半年が経過しました。3号を数える「News Letter」にみるように、皆様のご協力によってそれなりに何か少しずつ進んでいるかなと思える状況です。先発の「広島大学マスターズ(東広島市)」との協力、共同事業も有意義に進んでいるように思っております。

とはいえ、いまのところ諸行事の企画などは幹事会の主導で、会員の皆様のご意見のくみ取りにはまだ自信がありません。今年度の総会でさまざまなご意見、ご提案、ご批判など心からお待ち申します。

本年も着実な歩みができればと念じております。すべての会員のご支援ご協力が欠かせません。何とぞどうかよろしくお願い申し上げます。

2. 外国の大学における学生に対する研修会の講師の斡旋依頼について

広島大学では、国際的な学術交流を各研究科とは別個に国際センターが中心となって、昨年からはアジア諸国の学生を対象として、年に2回、2週間程度の期間で日本の大学や日本文化・日本事情を紹介する特別講習会の開催に取り組んでおられます。第1回の特別講習が昨年8月に中国の大学からの参加学生8名を対象にして開催されました。

第2回の特別講習が本年2月7日(月)～20日(日)まで、中国の大学における日本語学科の学生27名を迎えて「2010年度広島大学冬期日本語・日本文化特別研修」を実施されることになっています。この期間中の午前中に「日本語」(9時～10時20分)・「日本文化」(10時40分～12時)の授業、午後に「日本事情」(13時～14時20分)の授業が行われ、特に「日本事情」は、現在の日本が直面する様々な問題についての講義を開講することを計画されているとのことです。

浅原学長は、この研修会を全学的事業として行うように国際センターに指示されているとのことで、広大マスターズ及び広大マスターズ広島の諸先生方にもご協力をお願いするようとのアドバイスをされたようです。国際センター長の佐藤利行教授から広大マスターズと広大マスターズ広島の両組織に、「日本事情」4コマ、「日

本学」1コマのプログラムについて、講師の斡旋依頼がありました。

広大マスターズの代表幹事の金田先生と広大マスターズ広島の代表幹事の渡邊先生が昨年12月28日（火）に西条キャンパスの国際センターで、国際センターの花房卓爾助教と協議され、両マスターズが今後とも協力させてもらうためには、両組織の会員の一部に過剰負担となるような企画は極力避けるべきという観点から、「日本事情」4コマ、「日本文化」1コマのプログラム構築については、広大マスターズと広大マスターズ広島の両組織にある程度委ねてもらい、こちらで適当な講師と演題を決めさせて欲しいとの提案を行なわれ、具体的な作業を検討することになりました。

本会はまだ立ち上げて準備がまだ十分整っていないということで、2月の冬期特別講習は広島大学マスターズの方で講師を担当されるとのことで、日本事情では「日本の大学事情」、「日本の環境問題」、「リーダーシップと職場」、「暮らしのなかの無線」の4コマ、日本文化では「かるた」の1コマを担当されることになりました。8月の夏期特別講習では広島大学マスターズ広島の会員の方にも講師を依頼したいとのことです。本会の会員の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

この特別研修では、アジア各国の大学生が私費（10万円程度）で参加し、単位は出しませんが、学長の修了証書が出されるとのことで、最後に参加学生のスピーチをしていただくことになっているとのことです。日本文化では、茶道や華道についての講義も予定されていますので、茶道や華道の指導経験のある方は是非ともご協力をお願いします。また日本事情にふさわしいテーマで講義をご担当いただける方も、本会事務局までご連絡ください。

3. NHK文化センター広島教室からの講師の斡旋依頼について

本会の協力会員であるNHK文化センター広島教室の酒井支社長から、本年4月から開講予定の社会人向けの世界史の学び直し講座の講師の斡旋依頼があり、幹事会としては元文学部の岡本明先生をご紹介しました。今後このような講師依頼が増えると思いますので、会員の皆様のご協力をお願いします。

4. 広島大学から依頼のあった「平和科目」開講要領について

会報の第2号でご報告しました広島大学における教養教育の改革の一環として平成23年度から開講されることになりました一般教育科目「平和科目」につきまして、本会に協力依頼のあった科目の平成23年度における開講要領が決まりましたのでご報告します。

本会の会員により提供される授業科目「平和と人間C」は、前期に東千田キャンパスで水曜日の夜間授業時間帯1・2時限（18:00-19:30）に、「平和と人間D」は、後期に東千田キャンパスで月曜日の夜間授業時間帯1・2時限（18:00-19:30）に開講されることになりました。両科目の授業内容の概略、授業計画は、次の通りです。

* 授業科目名：平和と人間C——広島で学ぶ（原爆とは何だったか）

〔授業内容の概略〕

この授業では、原爆に焦点を置き、担当教員の被爆体験を中心に据え、人間にとって原爆とは何であったかを学ぶ。われわれが「人間」として等しく希求する「平和」を脅かす最たるものは戦争である。本講では、戦争を①その原因、誘因、②その実際、実態、③それがもたらすもの、に分け、それぞれを「事実として直視すること」を基本的な視点とする。各担当者は専門分野、経験から三者のいずれかに重点を置き、基本視点に則って講述する。

本講の目的は、受講する学生が人間としての自らを豊かにしつつ、その大前提として、戦争を回避する論理を構築するに資することにある。

〔授業計画〕 氏名のあとは、退職時の所属

第1回 渡邊一雄（総合科学部）——問題提起と授業の組み立て

（1）戦争とはなにか

第2回 岡本明（文学部）——ナポレオン戦争とヨーロッパ

第3回 井上研二（総合科学部）——民族紛争

- 第4回 高橋 衛 (経済学部) —— 戦争と軍縮 I
 (2) 原爆とは何だったか——ある被爆体験
 第5回 植木研介 (文学部) ——ある被爆体験
 第6回 同 ——被爆と詩歌
 第7回 寺地 遵 (文学部) ——被爆体験の重み
 第8回 北川建次 (教育学部) ——被爆をどう伝えるか I
 第9回 同 ——被爆をどう伝えるか II
 第10回 岩崎文人 (教育学部) ——小説を通してみる原爆
 第11回 同
 (3) 原爆の威力とそれが残すもの
 第12回 石丸紀興 (工学部) ——復興と被爆建物の保存
 第13回 武市宣雄 (医学部) ——放射性物質は何を残すか
 第14回 宇吹 暁 (原爆放射能医学研究所) ——被爆資料と総括
 第15回 渡邊一雄 ——むすびー現在から未来へ
 第16回 期末試験 (渡邊一雄)

*** 授業科目名：平和と人間D——広島から未来に向けて**

〔授業内容の概略〕

われわれが「人間」として等しく希求する「平和」を脅かす最たるものは戦争である。この授業では、戦争および原爆が人間および文化にもたらす事実への直視を出発点に、一つの究極兵器である原爆の基礎技術となった原子核物理学が技術として人類に何をもたらすかに考えを進める。

本講の目的は、受講する学生に、戦争、ことに兵器開発の歴史を理解させ、戦争を回避する論理を自ら構築しながら人類の未来にとって科学がいかなる働きをするか考えさせることにある。

〔授業計画-〕 氏名のあとは、退職時の所属

- 第1回 渡邊一雄 (総合科学部) ——問題提起と授業の組み立て
 (1) 戦争は何をもたらすか
 第2回 岡本 明 (文学部) ——ナポレオン戦争とヨーロッパ
 第3回 高橋 衛 (経済学部) ——戦争と軍縮 II
 (2) 被爆体験をどう伝える
 第4回 北川建次 (教育学部) ——被爆体験 (1)
 第5回 岩崎文人 (教育学部) ——被爆体験 (2)
 第6回 寺地 遵 (文学部) ——被爆体験 (3)
 第7回 植木研介 (文学部) ——被爆体験 (4)
 第8回 宇吹 暁 (原爆放射能医学研究所) ——被爆資料と総括
 第9回 同 ——映像の提示・解説
 (3) 原子核科学が人類に残すもの
 第10回 大杉 節 (理学部) ——原爆の威力
 第11回 同 ——原発を考える
 第12回 武市宣雄 (医学部) ——被爆と人体
 第13回 同 ——これからの放射線医学
 第14回 渡邊一雄 (総合科学部) ——同位元素標識、バイオ兵器
 第15回 同 ——むすびー現在から未来へ
 第16回 期末試験 (渡邊一雄)

時間的な関係で、少ない情報から幹事会の方で検討を行い、平成23年度は上記の会員の方にお引き受けいただきました。他のマスターズメンバーにも適任者が居られると思いますし、「全体構成」についても議論のあるところとは存じます。24年度以降、さらなる展開・充実を図りたいと考えていますので、会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

5. 広大マスターズ企画のロシア旅行のご案内について

先般、本会の会報「マスターズ広島 News Letter」(第2号)でご案内しましたように、東広島の広島大学マスターズが企画されましたロシア旅行の説明会が昨年11月24日に東広島のサンスクエア東広島3Fコラボスクエア会議室で開催され、参加されました皆さんのご意見も参考にされ、昨年12月に「マスターズ会員への案内文」とともに、確定しました「企画書」、「旅行日程・経路表(2コース)」、「旅行申込書」、「海外おみやげ(ヨーロッパ)のパンフレット」(「海外おみやげ申込書」が綴じ込まれています)を同封させていただきました。

郵送させていただきました「企画書」及び「旅行日程・経路表(2コース)」などをご参照のうえ、「旅行申込書」に必要事項をご記入のうえ、前回お送りしました返信用封筒(料金受取人払い)により直接ロシア旅行社の方に来年1月末日までにお申し込みください。現在、旅行企画の実施に必要な最少催行人員10名がぎりぎりのところとお聞きしていますので、ロシア旅行の企画が実現できますように、会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

なお、本企画について、ご不明の点やご確認したい事項がおありの方は、広島大学マスターズの幹事の原野先生が、対応して下さると思いますので、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

お問い合わせは：原野 昇(世話係)

メール：nharano@hiroshima-u.ac.jp

電話：082-428-3962

6. 春の例会として広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台見学会を開催予定

第2回例会として、東広島天文台を見学し、観望する会を4月の例会として開催することを計画しています。同天文台は、観測環境のひじょうにすぐれた、新幹線東広島駅南にのぞむ連山の一地点に広島大学宇宙科学センターの附属施設として2006年4月に設立されました。東京都三鷹の国立天文台から移設された国内最大級口径1.5mの光学赤外線天体望遠鏡「かなた」を駆使して、さまざまな世界的な研究成果をあげておられます。その「かなた」を実際に覗いて惑星などを見る天体観望会を計画していましたが、1月中旬から3月末まで「かなた」望遠鏡に大型の観測装置を取り付けて、実験的な観測が行われることになっており、このため眼視用の接眼レンズが一時的に使えなくなっているとのことで、天体観望会の受け入れが中止されています。4月から天体観望会の受け入れが行われるようですので、本会の春の例会として天文台見学会を開催する予定です。ご家族、ご友人をお誘い合わせの上ふるってご参加ください。

広島大学マスターズ広島事務局

〒730-0053

広島市中区東千田町一丁目1番89号

広島大学東千田地区支援室気付

(FAX) 082-542-6964

(E-mail) masters2@hiroshima-u.ac.jp